



# 未来を共につくる

奈良のたからは日本のたから



## 吉野共生プロジェクト

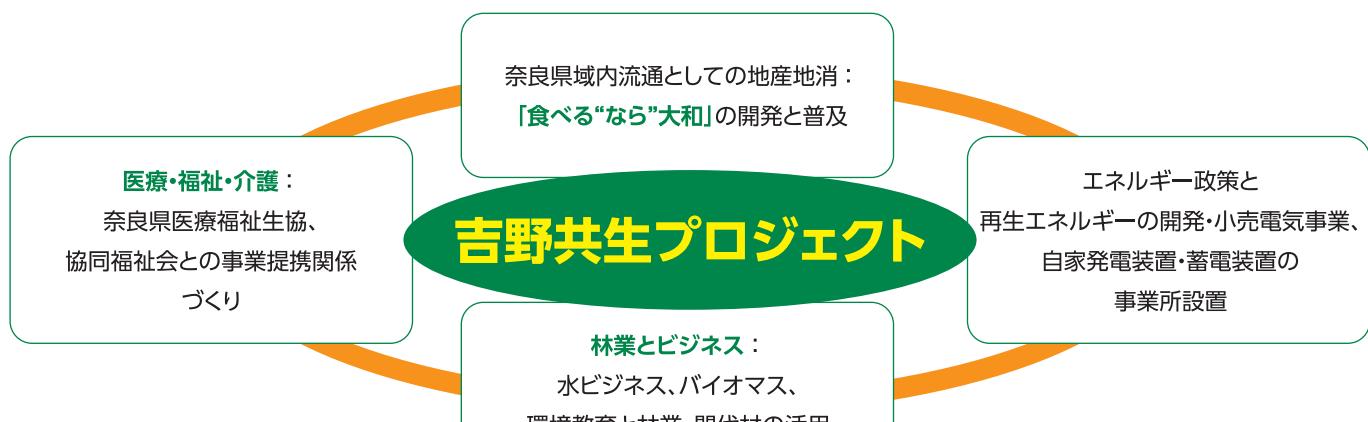
大台ヶ原の原生林／上北山村

ならコーポは奈良大和の地で培われた「共生」の風土を受け継ぎ、  
奈良県の自然と文化を守り発展させ、次世代へと繋げていきます。

# “たすけあい ささえあい わかちあい”

奈良県は、人口の集中する北部の奈良盆地、盆地を取り囲む生駒、金剛山地、大和高原、宇陀山地、そして南部の吉野地方に区分されます。昔から奈良盆地を「国中(くんなか)」、山間部を「山中(さんちゅう)」とよび、人や物資の往来を通じて共存共栄してきました。その「山中」の人口の高齢化、過疎化が急速にすすみ、様々な地域問題をかかえています。いま、わたしたちならコープは、北部の人口集中地域の奈良盆地と南部・東部の「山中」との「人、もの、サービス」の交流を深め、「山中」のくらしと経済を元気にする活動、そして、多数の組合員から「たすけあい・ささえあい・わかちあい」の共同社会づくりを実現するために「吉野共生プロジェクト」を立ち上げました。

吉野共生プロジェクトは、吉野の森と水を守る募金活動から始まりました。このプロジェクトの4つの柱は、①:吉野の森と水の保全 ②:吉野の自然と文化、歴史の継承 ③:吉野の産業振興、地域経済の自立化支援 ④:多数の組合員のたすけあい・ささえあい・わかちあいです。この4つの柱を4つのキーワード(地産地消・食べる“なら”大和、新エネルギー・発電、森林・環境・水ビジネス、地域医療・福祉)で実現します。



吉野共生プロジェクト推進委員会  
座長 碓井 照子 (奈良大学名誉教授)

# ならの元気は吉野から

自然とふれあい、人と人とのふれあいを大切にしながら、吉野地域の活性化をめざします。



## 植樹活動

組合員参加の植樹活動を通じて、里山保全などの環境保護活動を推進しています。



## 十津川村の道普請

2011年の台風被害がまだ残る中、道の修復作業(道普請)に汗を流しています。

「たすけあい・ささえあい・わかちあい」をテーマに、ならコーポは、県民のくらしと地域社会に役立つ組織でありたいと考えています。

## 吉野共生プロジェクトの歩み

2009 4月 JAならけん、ならコーポによる「地産地消をすすめる会」協定式

11月 「吉野の森と水を守るために募金」創設

2010 2月 奈良県と奈良県生協連、ならコーポで「災害における緊急物資供給協定」を締結

3月 「吉野の森と水を守るために募金」を活用して吉野山の龍王院所有地に植林

2011 3月 奈良県と「高齢者の生活支援に関する連携協定」を締結

9月 台風12号被害対策本部を設置被災者救援と被災地振興のために災害救援募金を開始

2012 4月 吉野共生プロジェクト推進委員会発足

6月 県南部9自治体との「災害時の物資供給協定」の締結

11月 吉野の森と水を守る運動「大淀町で植樹祭」を開催

2013 9月 夕食宅配事業者が東吉野村の高齢者配食サービスと業務提携

11月 近畿労働金庫との「災害時相互支援基本協定」締結の調印式

11月 南部地域産業復興推進大会「なんゆう祭」に実行委員会メンバーとして参加

2014 3月 「コーポあつたか便移動店舗」運行開始

10月 南部東部地域活性化イベント「なんゆう祭(2014)」(五條市)に参加

11月 奈良市青山地区買物支援バス試行運行開始

2015 3月 水源地の村・川上村「未来の風景づくり」第1回植樹

4月 「奈良の木」を使った贈り物開発プロジェクト会議への委員参加

6月 川上村との地域包括協定を締結

10月 東吉野村水力発電(つくばね発電所)の視察

10月 南部東部地域活性化イベント「奥大和なんゆう祭」に参加

2016 4月 奈良県との「連携と協力に関する包括協定」の締結



2009年4月



2011年9月



2012年11月



2013年9月



2013年11月



2014年10月



2014年11月



2015年6月



2015年10月



2015年10月



2016年4月

## 緊急時物資協定を締結

災害時の緊急物資の支援をしてくため、奈良県をはじめ県内39全ての市町村と協定を結びました。奈良県の皆さんの健康と安全を支えることが、地域の発展に繋がると考えています。



大淀町 災害時物資供給協定締結  
(2015年9月)



地域での防災訓練  
(橿原市、大和高田市、葛城市)への参加

# 吉野地域の開発商品

## ならコープ産直

### 吉野の南高梅

(梅酒用)



奈良県五條市西吉野町  
山本農園。賀名生梅林で有機配合肥料を使用して栽培しています。梅干用(漬け梅用)と比較して青めのものをお届けします。梅酒や梅ジュースで。

## PB(プライベートブランド)商品

### やたがらす純米酒



ならコープ 奈良県吉野町で生まれた、すっきりとした味わいの純米酒です。北岡本店 奈良県南部、吉野熊野国立公園の入り口、吉野川に沿う地に酒蔵があり、日々酒造りに取り組んでいます。

## いきなり団子(深吉野よもぎ)

熊本名物いきなり団子の生地に、奈良・東吉野村のよもぎを練り込みました。元々山野に自生している地域資源の「よもぎ」に注目し、奈良県東吉野村で、休耕田を利用し栽培した「深吉野よもぎ」を団子に使用しています。

## 地産地消おせち3段重

奈良女子大学の皆さんと開発したオリジナルおせちです。「下北春まな」など、奈良の食材をふんだんに使用しました。重箱は、正倉院紋様をモチーフにした華やかなデザインです。奈良食材、伝統を「食べて、見て」感じができる逸品です。



### 十津川なめこ(洗い)

水のきれいな十津川村で栽培。  
袋から出してそのまま調理してください。



### 吉野のぶなしめじ

吉野町で栽培されたぶなしめじ。  
少量で案内しています。

## 祝い箸

吉野杉使用の  
祝い箸。吉野杉  
ならではのぬく  
もりと香りで迎  
春を引き立て  
ます。



# よりよきくらしのために

＊「たすけあい、ささえあい、わかちあい」の協同理念に基づき、「市民生活協同組合」の可能性を広げる新しい領域での取り組みがスタートしています。

ならコープは、さらなる組合員へのお役立ちと組合員の願いを実現するために、未来づくりに向けた投資をすすめています。新たな事業とサービスの領域を開拓し、「消費者“市民”社会づくり」と「100年続く生協」をめざした新事業所の開設により、組合員のくらし全般をささえる様々なサポート活動をすすめるとともに、次世代の子どもたちに奈良の豊かな環境を引き継ぐため、環境を守る取り組みをこれからもすすめていきます。



吉野事業所



水製造業



農産物の栽培



本部事務棟、事業棟



田原本物流センター



コープなんごう(2016年秋オープン予定)



奈良市七条西町(2018年春オープン予定)

# 県南部東部地域の組合員や住民とのふれあいの場を増やします



\* 「コープあったか便移動店舗(2014年3月より運行開始!)」、「ならコープタ食宅配」

奈良県、とくに吉野地域は高齢化が進んでおり、外出が困難な方もいらっしゃいます。18自治体と協定を結び、お買い物支援や夕食宅配サービスなどを通して高齢者の生活を見守っています。



移動店舗車(東吉野村)

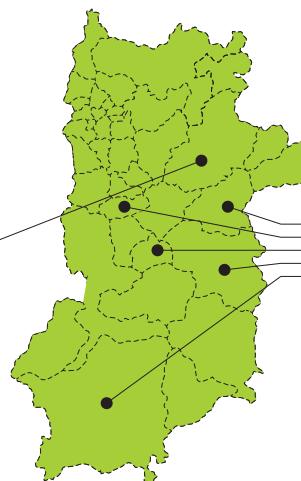


移動店舗2号車運行(桜井市)

\* 県南部東部の魅力を再発見! 「奥大和ゆうゆう祭」と「各地での植樹」などの取り組み



奥大和ゆうゆう祭(宇陀市)



つくばね発電所視察  
(東吉野村)

大淀町での植樹

絆の森整備事業  
(黒滝村)



組合員のつどい  
(十津川村)



川上村での植樹



川上村との包括協定締結

## 組合員のくらしに貢献するエネルギー分野の取り組み

現在、私たちがエネルギー源として大きく依存している化石燃料や原子力は、CO<sub>2</sub>排出による温暖化や環境汚染リスクも懸念される有限資源であり、将来世代にわたり持続可能なエネルギー源とは言えません。

ならコープグループでは「2020年に向けた新環境政策」で創立依頼の基本方針を確認して、奈良県の豊かな自然と文化を守り、次世代の子どもたちに引き継ぐため環境にやさしい地域づくりをすすめています。



「株式会社コープエナジーなら」を設立(2015年6月)



太陽光発電のさらなる拡大



電力事業によるコミュニティの活性化  
や持続可能なまちづくりを支援



東吉野水力発電(つくばね発電所)  
復活への支援



ペレットストーブの  
事業所設置



真庭市バイオマスツアー  
(岡山県真庭市)



吉野共生プロジェクト

# 地域共生社会へ ～未来を共につくる～

奈良のたからは日本のたから

対談



碓井照子



森 宏之

吉野共生プロジェクト推進委員会座長  
奈良大学名誉教授

## 碓井照子

市民生活協同組合ならコープ  
理事長

## 森 宏之

奈良県は、人口の集中する「国中(くんなか)」と呼ばれる奈良盆地、「山中(さんちゅう)」と呼ばれる盆地を取り巻く生駒・金剛山地、大和高原、宇陀山地そして吉野地方に区分されます。その「山中」は、人口の高齢化、過疎化が急速に進み、様々な地域問題を抱えています。わたしたち市民生活協同組合ならコープは、国中の人口集中地域である奈良盆地と南部・東部の「山中」との「人、もの、サービス」の交流を深め、「山中」の暮らしと経済を元気にする活動、そして多数の組合員から「たすけあい・ささえあい・わかちあい」の共同社会づくりを実現するために「吉野共生プロジェクト」を立ち上げました。

このプロジェクトは、吉野の森と水を守る募金活動から始まりました。その4つの柱は①吉野の森と水の保全②吉野の自然と文化、歴史の継承③吉野の産業振興④多数の組合員のふれあい・わかちあい・ささえあいです。吉野共生プロジェクトについて、同プロジェクト推進委員会座長の碓井照子・奈良大学名誉教授と市民生活協同組合ならコープ理事長の森宏之に語り合っていただきました。

### 立ち上げの経緯

森▶吉野共生プロジェクト立ち上げを訴えられた経緯を伺いたいと思います。

碓井▶私はかつて、川上村の限界集落を10年間にわたって調査していました。このままでは本当に限界集落は自然消滅してしまう、何とかしなければという思いで、14年前のことですが、当時ならコープの学識経験者理事をしていましたので、「吉野の水やエネルギーについて、ならコープとして大きな役割を果たせるのではないか」という趣旨を提案させていただきました。

大学退職後は吉野共生プロジェクト

の座長に就任させていただき、吉野地域の再生を通じて奈良県全体の活性化につながればという思いで役立たせていただきたいと思っています。

### 吉野共生プロジェクトとは

森▶碓井座長にはならコープで長年にわたり活動していただいています。

吉野共生プロジェクトは、4つの柱を4つのキーワード、すなわち地産地消「食べる“なら”大和」の開発と普及、エネルギー政策と再生エネルギーの開発・小売電気事業、自家発電事装置・蓄電装置の事業所設置、森林・環境・水ビジネスとしてバイオマス、環境教育と林業、間伐材の活用、医療・福祉・介護とし

て奈良県医療福祉生協、協同福祉会との事業提携環境づくりにより、実現していこうというものです。

碓井▶川上村をはじめ、山中の人口減・高齢化地帯ではフードデザートといわれている状況がすすみ、食料の買い物に行けない人たちがいます。昔ながらの個人商店、行商、移動販売などが廃れてしまい、ならコープの食料供給が頼りなのです。実際にそのような地域の高齢者は、ならコープが商品をお届けすると明るい表情になります。これはならコープの社会的使命であると思います。

森▶東日本大震災あるいは紀伊半島大水害の経験から、村では3、4日孤立しても、近所同士頑張っておられ



## 地域共生社会へ ～未来を共につくる～

対談 碓井照子×森 宏之

↘ ました。これはまさにたすけあいの原点だと思います。このような精神や習慣はふだんからあるわけですが、ならコープとしてはこまどり便の週1回配達サービスに加えて、「移動店舗車」「コープあったか便」「コープタ食宅配」でのお買い物支援や宅配サービスを拡大したいと考えています。

### 奈良県という経済圏

**碓井** ▶歴史的に奈良県の国中と山中は、物資の交流が行われており、大和一国で経済圏を形成していました。

これが交流の原動力であり、いまならコープが共生ネットワーク社会をつくるということで活動している役割は大きいと思います。ならコープは、帰りは山中の特産品を持って帰ってくればいいわけで、ならコープがパイプになって国中と山中の物流を担えばいいと思います。

**森** ▶いまは道路もよくなりましたが、無理なく配達できます。

**碓井** ▶柿とか柿の葉寿司、ヒノヒカリといった地産地消商品をつくるなど奈良県地場特産化に努力してきました。今後も地元の食品メーカーと大学との連携、協業を進めると共に、大和野菜などはならコープのルートに乗せて消費者に届くようにしていくべきだと思っています。

### 学びの場として

**碓井** ▶吉野共生プロジェクトでは、

植樹活動による里山保全や環境保護活動をしていますが、子どもたちが吉野との交流によって豊かな自然や環境、水の大切さを学ぶことはよいことだと思います。

またつくばね発電所も見学させていただきましたが、1963年まで東吉野村で水力発電して電灯を灯していたということもすごいことだと思います。環境学習によって、循環型環境社会について、環境を守り後世に伝えていくことの大切さを学んでほしいと思います。

**森** ▶環境学習は、寺子屋活動のようなものだと思います。

つくばね発電所の話が出ましたので、東吉野水力発電について紹介させ



ていただきます。水と自然に恵まれた東吉野村で、クリーンで再生可能なエネルギーである水を使った事業が復活します。

つくばね発電所は、100年ほど前の大正3年、吉野水力電気株式会社が設立され、発電所が稼働していました。実際に昭和38年まで、山間の家々に電気を送り続けていたのです。東吉野水力発電は、当時の導水路などを生きかえらせて、クロスフロー発電機を装備したつくばね発電所を復活させます。

**碓井** ▶学びの場が生活につながっていくというのは、素晴らしいことだと思います。

いまならコープが吉野共生プロジェクトで取り組んでいる事業は、日本における人口減少地域でのモデルプロジェクトとして日本全国に広がっていってほしいと思います。

### ならコープの将来像

**森** ▶ならコープでは、吉野共生プロジェクトのもと、人と人、人と地域との関係性を強め、ささえあう地域づくりと奈良県の環境保全、産業の振興、雇用の創出を目的に、2016年4月に吉野事業所を開設します。吉野事業所では、宅配水用の原水精製と製造・販売事業、水耕栽培などの農産物の栽培、地域の農産物の集荷・選別・出荷、店頭での販売、太陽光発電システムの運営などをおこないます。

また誰もが安心してくらせる地域づくりを進める一環として、ならコープ本部事業棟(あすならハイツ恋の窪)をオープンします。あすならハイツ恋の窪では、ならコープ、そして、コープたすけあいの会並びに、社会福祉法人協同福祉会、奈良県医療福祉生活協同組合の三者が連携して地域(わたしたちがくらす町)包括(みんなで)ケア(ささえあう)を進めます。

**碓井** ▶ならコープは100年生協として、安心して豊かに生活できるライフスタイルをめざしていくべきだと思います。生活や社会全体をサポートすることで、100年生協としての基盤をつくっていただきたいです。

**森** ▶ならコープ創業の理念に立ち返り、たすけあい、ささえあい、わかちあいの事業を実践していきたいと考えています。

# “たすけあい ささえあい わかちあい”

## 吉野の未来を、共につくる…



吉野共生  
プロジェクト



ならコープ



JAならけん



奈良県生活協同組合連合会

### 私たちも応援しています。

- 吉野町長 北岡 篤 ○川上村長 栗山 忠昭 ○御杖村長 伊藤 収宣 ○曾爾村長 芝田 秀数 ○宇陀市長 竹内 幹郎
- 五條市長 太田 好紀 ○大淀町長 岡下 守正 ○下市町長 枚本 龍昭 ○東吉野村長 水本 実 ○黒滝村長 辻内 幸二
- 十津川村長 更谷 慶禧 ○野迫川村長 角谷 喜一郎 ○下北山村長 南 正文 ○天川村長 車谷 重高 ○上北山村長 福西 力
- 山添村長 齋田 政倫
- ニシキ醤油株式会社 代表取締役 大方 豊 ○巽製粉株式会社 代表取締役 巽 弘典 ○株式会社山食 代表取締役社長 山口 敦史
- 株式会社若草食品 代表取締役社長 上杉 幸作 ○株式会社マンヨー 代表取締役 土井 正治
- ミヅホ株式会社 代表取締役 大西 甚吾 ○株式会社味の大和路 代表取締役 奥村 吾郎 ○株式会社北岡本店 従業員一同
- 株式会社クラブコスメチック 専務取締役 高井 道男 ○堺共同漬物株式会社 代表取締役 林野 雅史
- 大和ハウス工業株式会社 奈良支店長 井上 富重 ○丸中水産株式会社 代表取締役社長 中村洋祐
- 三重県漁業協同組合連合会 鮮冷加工部 加工直販課 ○株式会社さかんしエムエス 代表取締役社長 小牧 俊典
- 吉野中央森林組合 代表理事組合長 坂口 勝美 ○株式会社三井住友銀行 奈良法人営業部
- 株式会社三菱東京UFJ銀行 奈良支社長 ○株式会社ゆうちょ銀行 奈良支店長 ○株式会社南都銀行 南支店長
- 近畿労働金庫 奈良地区統括本部長 ○コア100賀川 世話人一同 ○社会福祉法人協同福祉会 理事長 村城 正
- 株式会社奈良コープ産業 代表取締役社長 米田 季弘 ○株式会社CWS 代表取締役社長 中村 和次
- 奈良県医療福祉生活協同組合 理事長 仲宗根 迪子 ○株式会社ハートフルコープなら 代表取締役 岩野 隆志
- 株式会社ハートフルコープよしの 代表取締役 宮高 達也 ○株式会社コープエナジーなら 代表取締役 中村 和次 ※順不同

協同組合がよりよい社会を築きます



奈良市恋の窪一丁目2番2号

ホームページ <http://www.naracoop.or.jp/>